

# Zoom利用のWeb会議導入・活用法

大阪代協

## インプリメント株の木村社長が基礎解説



山中会長

大阪代協(山中尚会長)は、8月4日午後1時30分から、オンラインセミナー「Zoomを利用するWeb会議『基礎の基礎解説』」を開催した。講師は、損害保険会社勤務を経て2006年にインプリメント株式会社取締役に就任した木村博史氏。同氏はこれまでマーケティングやYouTube活用に関する数多くの書籍を執筆しており、当日は今年3月に刊行された『動画で稼ぐ仕事術』の内容を中心に、具体的にパソコンを使ってZoomの導入・活用法について解説した。

### パターン化、定型化する

#### 同じ空気を意識し共有

セミナーに先立ち山中尚会長が「新型コロナウイルス感染症問題が再び広がりを見せ、社会全体にあり方が大きく変わろうとしている。リモートワークやWeb会議が当たり前の環境にある中であって、以前にも増して良好なコミュニケーションが求められる時代」と挨拶した。



木村氏

セミナーでは、まず木村氏がオンライン動画は大きく「作る動画」と「使う動画」の2つに分けると説明。作る動画

の代表的なものはYouTubeで、あらかじめ撮影したものを演出・編集して視聴者が見たいと見られるもの。もう一つは「使う動画」とはZoomのような遠いところをつないで動画を効果的に配信できるWebコミュニケーションツールである」と説明した。

そして、Webコミュニケーションツールを効果的に使うには「パターン化」と「定型化」とい

った仕組みづくりが重要であるとし、例えばお客様と面談する場合、ここに座るとお客様と良いコミュニケーションが図れる、あるいはきれいに撮影ができる、失敗することなく配信できる、といったものを決めてしまつておくと述べた。

続いて、配信方法について紹介し、Zoomは基本的にライブ(録画してストリーミング共有あり)により双方向で情報を交換できる、いわゆるリアルコミュニケーションを図れるもので、その情報は当事者以外にはクローズされる。YouTubeやLINE、Facebookは広く公開することを目的としたSNSであり、セキュリティ面に不安がある一方、Zoomは電話と同様、限られた人同士がクローズドの世界でコミュニケーション可能な安心できるツールであり、「ビジネスに向いている」と話した。

そして、Zoomの始め方、使い方について、具体的にパソコンの画面を表示して順序を追って分かりやすく説明した。①「空気を共有する」ところが重要であると訴えた。木村氏は、人と直接面談することが理想と前置きしたうえで、新型コロナウイルスによってWebコミュニケーションを活用せざるを得ない時代になってきた。ただ、Webコミュニケーションを行う時は、演者が壇前に気を入れるように、まず自分自身がこれからWebで面談あるいは会議をするという意識を持って表現・演技・技術面で空気を交えること、そして相手と同じ空気を持つこと、多くの人も同様の空気を共有することが大切で、そのための努力が必要だと強調した。

また、自分の撮り方の工夫として、カメラは上から映す方が優しく見え、公式な商談や面会は一定の距離感を設定した方がビジネスに適しているとアドバイスした。

その後、実際にどのような機材・道具を使うかを手に取って説明した。

## まずはチャット機能

Zoomは電話と同様、限られた人同士がクローズドの世界でコミュニケーション可能な安心できるツールであり、「ビジネスに向いている」と話した。そして、Zoomの始め方、使い方について、具体的にパソコンの画面を表示して順序を追って分かりやすく説明した。①「空気を共有する」ところが重要であると訴えた。木村氏は、人と直接面談することが理想と前置きしたうえで、新型コロナウイルスによってWebコミュニケーションを活用せざるを得ない時代になってきた。ただ、Webコミュニケーションを行う時は、演者が壇前に気を入れるように、まず自分自身がこれからWebで面談あるいは会議をするという意識を持って表現・演技・技術面で空気を交えること、そして相手と同じ空気を持つこと、多くの人も同様の空気を共有することが大切で、そのための努力が必要だと強調した。

最後に、同氏は「Webは、リアル映像が地域を超えてつながるなど、コミュニケーションだけでなく様々な利用法が考えられる。決して難しく考えることなく、まずはチャレンジし、それぞれの最適な使い方を発見してほしい」と締めくくった。